

## 平成27年度事業計画書(H27.4.1～H28.3.31)

骨粗鬆症財団は設立から23年にわたり、疾患啓発活動事業を幅広く展開してまいりました。しかし、骨粗鬆症検診が十分に機能していないこと、推定患者数と実際の受診患者数に大きな開きがあることなど、根本的な課題が浮き彫りになってきています。

その理由として、一般市民とプライマリケア医に対して骨粗鬆症の正確な情報が伝わっていないことが挙げられます。超高齢化社会における健康寿命を延ばすためには骨粗鬆症の啓発は必須であり、有望な薬剤の登場により大きな成果も期待できます。

そこで平成27年度は以下の2点を活動の柱として取り組みます。

1. 一般市民、プライマリケア医を対象とした普及啓発活動
2. 普及啓発事業への選択と集中

まず、啓発活動に集中するにあたり、骨粗鬆症の予防と治療における課題を明らかにするため、ワーキンググループ(WG)を立ち上げ、診療実態調査や一般市民意識調査を行います。その結果を基に体系立てた啓発事業を企画立案してまいります。

また啓発のためには情報発信力も重要と考え、世界骨粗鬆症デー(WOD)を起点としたイベントなどに話題性を作り、マスコミに取り上げられる機会を増やす一方、関連する企業を巻き込んでいく求心力を強めていきます。

### (1) 普及・啓発事業

#### イ) 骨粗鬆症に関する資料・資料の作成と配布

〈一般市民向け〉

- ・骨粗鬆症のベースとなる「疫学、病態、診断、治療、治療継続、等」に関する財団オリジナル資料

〈自治体・医療機関向け〉

- ・ポスター「10/20 世界骨粗鬆症デー」「骨粗鬆症(時期にかかわらず通年掲示可能なもの)」

〈医療従事者向け〉

- ・下敷き型資料「骨粗鬆症治療薬一覧 2015 年度版」(2013 年度版の改定)

- ・書籍「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年版」の発行(ライフサイエンス出版)

- ・「再骨折予防手帳」の企画立案

⇒資料は PDF ファイル化した上で HP に掲載し自由に印刷し使用できるようにする

⇒財団啓発資料の提供活動を広く認知させるため、関係者への告知を行うとともに、関連企業 HP から財団 HP へのリンク等を働きかけ、配布先の拡大を図る

#### ロ) ホームページの運営・更新作業

- ・一般向け、医療従事者向けページ共にコンテンツをより充実させる

- ・魅力ある HP に仕上げて閲覧数を増やし、バナー広告掲載を促す

〈注力する主なコンテンツ〉

- ・『病医院リスト』に更に多くの施設を掲載、利便性を改善する

さらに躯幹骨 DXA 保有施設だけでなく、橈骨 DXA 保有施設を追加する(11,000 施設)

- ・『検診』に自治体アンケートの結果報告や成功例などの VTR を掲載
- ・『Q&A コーナー』の見直しと追加訂正

#### ハ) 世界骨粗鬆症デー(WOD)の取組み

- ・第 4 回市民公開講座の開催(平成 27 年 10 月 25 日(日)、品川インターシティホール)
- ・啓発ポスター(「栄養」(仮)をテーマとして日本オリジナルを作成する)
- ・WOD イベントのアピール強化  
⇒メディア、関連企業、関連学会との協力体制を確立する

#### ニ) 骨量測定拡大キャンペーン 結果報告と今後の作業

- ・骨粗鬆症検診自治体アンケート結果報告をはじめとした検診の重要性を説くコンテンツを作成し、自治体の検診担当者に視聴を促す
- ・検診が活用されている自治体について、成功例としてコンテンツに順次紹介していく  
⇒骨粗鬆症検診の実態については統計データ等を用いてトレースしていく  
⇒日本骨粗鬆症学会の協力を得て、普及啓発を促す

#### ホ) 地域骨を守る会の支援・連携の拡大

- ・空白となっている東北、中国、四国、九州地区において関連の先生に打診を行い、新組織化を図る
- ・各地域の骨を守る会に対し補助金支援
- ・第 5 回全国骨を守る会連合会 開催(平成 28 年 2 月)
- ・将来的に「骨粗鬆症患者の会(もしくはその家族なども含めた友の会)」を立ち上げるための検討  
⇒「患者の会ワーキンググループ」にて検討

#### ヘ) 財団ニュースの発行

- ・年 2 回発行(7 月、1 月)
- ・電子媒体としての作成やメーリングリストによる配信およびアーカイブ化を検討する

#### ト) 教育ゼミナールの開催

- ・年 2 回開催(第 64 回:7 月、第 65 回:11 月)予定
- ・受講者を増やすため、受講対象者を広げた講演を企画する  
⇒第 64 回(7 月)は 18:00 開始とし、企業内での招聘活動を幅広く行う(対象を MR まで含める)  
⇒関心度の高い講師とテーマを選定する
- ・講演記録集の発行(第 63 回、第 64 回)

#### チ) 骨量測定法講習会「精度よく DXA で骨量測定するための講習会」の開催

- ・関東地区と関西地区にて開催  
(26 年度までに、都道府県別の講習会参加率(講習会参加施設数/cDXA 納入施設数) 25%超達成)
- ・次年度以降はeラーニングなど、WEB 講習会として受講できるシステムを検討

リ) 一般市民および患者向け啓発コンテンツの見直しと充実

- ・ホームページ『Q&Aコーナー』の見直しと追加訂正
- ・患者向けコンテンツの作成

様々な治療方法等を紹介し、閲覧者がそれを知り選択できるための一助とする  
⇒「骨粗鬆症治療の普及ワーキンググループ」にて検討

又) 電話、E-mail、ホームページから寄せられる相談・質問等への対応

- ・引き続き、迅速で丁寧な回答を心がける

※参考：平成26年4月1日～平成27年2月13日 130件

資料請求と問い合わせフォームを改良したところ、フォームからの資料請求や質問が増加

(2) 研究助成事業

- ・下記イ)～ハ)の3つの助成について、募集・選考・助成金交付を実施する。助成者の研究報告書は学術誌「オステオポロシス・ジャパン」に掲載する。

イ) 財団研究助成

- ・第23回(平成27年度)の助成交付
- ・第24回(平成28年度)(研究期間:平成28年4月～平成29年3月)

以下の様に募集要項を変更

募集期間	平成27年11月1日～12月25日
募集課題／件数	【一般課題】 骨粗鬆症に関する基礎・臨床研究及び調査 6題 【指定課題】 なし
選考委員	井上大輔、岩本 潤、竹田 秀、寺内公一先生(50音順)
選考委員会	平成28年2月上旬に開催
選考結果公表	平成28年3月(平成27年度第2回理事会・評議員会にて決議後)

ロ) 第12回リリー研究助成プログラム(臨床)(研究期間:平成28年1月～12月)

- ・10題の選定(80万円)
- ・募集:平成27年7月～8月
- ・選考委員:井上哲郎、堂地 勉、松本俊夫、藤原佐枝子先生

ハ) 第9回旭化成研究助成プログラム(臨床+QOL)(研究期間:平成28年4月～平成29年3月)

- ・8題の選定(50万円)
- ・募集:平成27年9月～10月
- ・選考委員:林 泰史、太田博明、細井孝之先生

- ・研究助成事業に参画する企業枠を広げる。

### (3) 調査・研究事業

#### イ) 骨粗鬆症診療実態調査

- ・電子レセプトデータを用いた診療実態調査を行う
- ・一般市民の骨粗鬆症に対する意識調査を行う
  - ⇒今後の啓発活動に活かす
  - ⇒「骨粗鬆症実態調査ワーキンググループ」にて検討

#### ロ) 骨粗鬆症治療薬の服用に関するアンケート調査(HAPPINESS-J Study)

- ・平成 27 年 5 月アンケート回収終了:世話人会にて最終報告を 9 月に開催
- ・アンケート調査後集計結果は学会発表する、また論文(英文)投稿を行う

#### ハ) FRAX<sup>®</sup>の評価・検証事業

- ・AFOS 投稿 予定

#### ニ) 「大腿骨近位部骨折全国調査」の活用

- ・5 年後の調査に向け、日本整形外科学会との調整
- ・70 歳代 80 歳代の骨折率減少による医療経済効果検証を検討
  - ⇒製薬企業へのアワード等を企画し、関係者が一体感を持った取組みを行う

### (4) 情報収集 & 国際交流

#### イ) IOF 関連

- ・情報交換と連携の強化を定期的に行う

#### ロ) 行政情報収集 & ロビー活動

- ・健康局 がん対策・健康増進課への協力要請
  - ⇒検診マニュアル・自治体アンケート・市民公開講座後援依頼・自治体アンケート結果のビデオ撮影
- ・WOD ポスターの後援を依頼、市民公開講座の後援を依頼、検診の推進連携を依頼

#### ハ) 健康日本 21 推進全国連絡協議会との情報交換

#### ニ) 関連学会との情報交換 & 連携強化

- ・特に日本骨粗鬆症学会、ロコモチャレンジ! 推進協議会との連携
  - (例: 関連学会への「骨粗鬆症財団ブース」出展 等)

### (5) その他

- ・個人賛助会員: 個人での寄附の受付を拡大(個人向け税額控除適用事業所となり、小口の寄附支出者の減税効果が高いことをアピールする)
- ・「役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程」の見直し